

World Watching 298

ワールド・ウォッチング



コートジボワール共和国 主要港湾の現況と 将来の展望



狩野 新

国土交通省港湾局
産業港湾課国際企画室



はじめに

2025年1月、国土交通省の実施する「日・コートジボワール港湾ワークショップ」が現地で開催されサンペドロ港湾公社、アビジャン港湾公社からの発表があった。またアビジャン港の現地視察をする機会を得たので、これらの経験をふまえ両港湾における開発状況や貨物取扱状況といった現状と今後の展望について紹介する。なお、コートジボワール・アビジャン港についてはWorld Watching 269（2022年10月号）においても紹介しているので参照されたい。



アビジャン港

(1) アビジャン港の現況

コートジボワール共和国のアビジャン自治区にあるアビジャン港は西アフリカ経済通貨同盟圏内最大の取り扱い規模を誇り、同国のみならず、国際回廊や鉄道を介して背後圏のサヘル地域内陸国（ブルキナファソ、ニジェール、ガーナ）へのゲートウェイ機能を果たすなど、地域の中心として重要な位置づけにある。

アビジャン港は2023年時点で、コンテナ取扱量が約124万トン、当国内で対外貿易取引量の約74.2%にある。図1に大陸別のアビジャン港取扱貨物量を示す。図1に示す通り南アフリカを中心にアフリカ諸国のほか、ヨーロッパ・アジアにも輸送取引を行っている。

アビジャン港は日本政府や、東亜建設工業株式会社などによる有償STEP制度の活用の下、

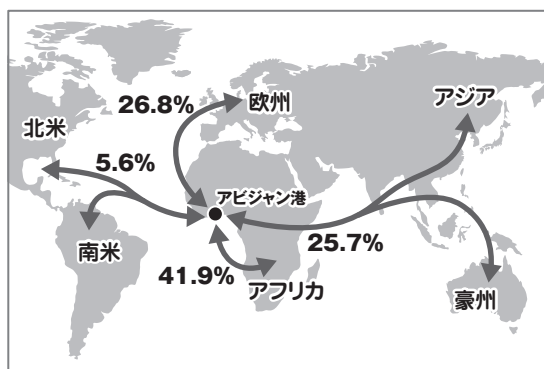


図1 アビジャン港における大陸別の取扱貨物量（2023年）

アビジャン港湾公社（PAA）が開発を行い、アビジャン港の主な取扱貨物は自動車、フルーツやカカオ等の農産物、マンガンやニッケルといった鉱物、石油などである。中でも本邦企業が受注したアビジャン港穀物バースについては埋立工事が2023年に完了している。図2に実際のアビジャン港における穀物の荷下ろしの現場を示す。2023年までのアビジャン港のコンテナ取扱量の推移を図3に示すが年々増加傾向にあり、今後の需要増加も予想されることから日本の円借款事業として穀物バースを拡大した意義は大きいと考える。



図2 アビジャン港（撮影2025年1月）

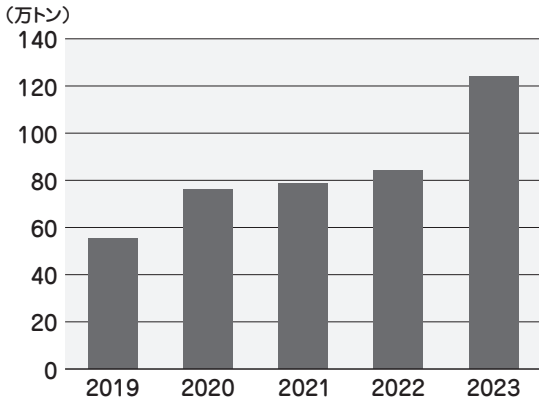


図3 アビジャン港取扱貨物量推移 (2019～2023年)

(2) アビジャン港の今後の展望

アビジャン港の今後の課題としてアビジャン港湾公社の発表では港湾施設の近代化、設備の補修、生産性の向上を挙げている。そのうえでアビジャン港から南東側の大西洋をつなぐヴリディ運河からの砂を止めるための防砂施設の建設や、浚渫事業等を進める予定であり、諸外国からの財政面における支援の要請が想定される。



サンペドロ港

(1) サンペドロ港の現況

アビジャン市内から西に350km、サッサランド地方に位置するサンペドロ港は、コートジボワール国内第二の港として鉱業製品、林産物、農産物が豊富な南西部の物流拠点であり、隣接するリベリアや内陸部の経済圏のマリ、ギニア等を支える貨物の中継港である。アビジャン港への貨物の集中を分散させるため1972年に開港したサンペドロ港は開発計画面積が約2,000haであるのに対し、港として整備したのは200haほど、後背地は手付かずの森林地帯となっている。サンペドロ港湾公社が開発を行っており、2010年から

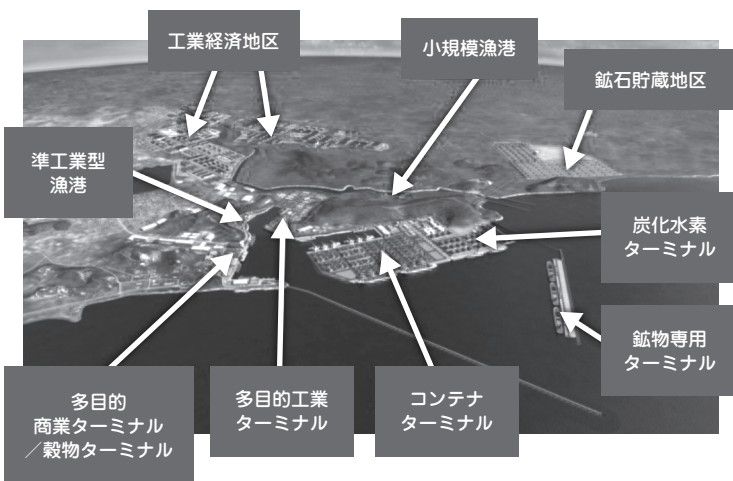


図4 サンペドロ港2030年までの展望

2023年の取扱貨物量が120万トンから700万トンにまで増えた実績を持つ。しかし課題としてコンテナターミナル等のインフラの整備が進んでおらず、港湾内及び背後地の臨港道路の老朽化が進んでいることから円滑な物流機能が果たせなくなることも予想される。

(2) サンペドロ港の将来の展望

サンペドロ港湾公社は森林地帯となっている後背地を、農産物等を取り扱うための基盤とする目標を示し、ターミナルの拡張等を経て図4に示す将来像を示した。

その中でサンペドロ港開発計画を行う上で現在着手中の事業として、①コンテナターミナルの移転・拡張、②多目的商業・産業ターミナルの建設・運営、③鉱石貯蔵地区、工業地帯の公共サービスの整備、④内陸部におけるドライポートの建設等を挙げた。現在進行中のコンテナターミナルの拡張や商業ターミナルの開設といった事業から図5に示すようにサンペドロ港湾公社は更なる取扱貨物量・売上高の増加、GDPの増加を挙げた。

しかし上記の工事を今後推進するためには資金的な課題があり、倉庫の増設や老朽化したインフラ施設の改善等に対応も必要になると予想されることから今後の円借款事業や無償資金協力の実施の可能性が存在する。



おわりに

日本はコートジボワールにおいてアビジャン港の穀物バースの建設など、同港における物流の効率化に寄与した実績を持つ。サンペドロ港においても日本が推進するPPPの活用などを通じて支援ができる可能性もある。今後もコートジボワール共和国内の港湾事情を注視していきたい。

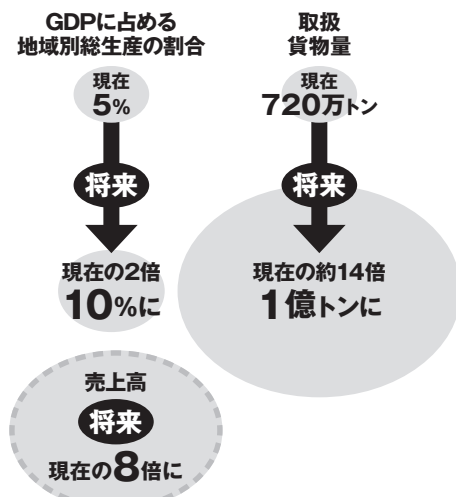


図5 サンペドロ港港湾開発の効果の想定